

【2020年1月8日付 紀州新聞掲載分】

シリーズ「コメディカルの現場から」⑥

「あなたの知らない「肺炎」の世界」

独立行政法人国立病院機構 和歌山病院
研究検査科 臨床検査技師 船田 天斗

肺炎は身近にある病気の一つです。皆さんの周りにも肺炎になった方やそれによって入院をされた方がいらっしゃると思います。今回はそんな「肺炎」という病気について考えていきたいと思います。

【肺炎とは】読んで字のごとく肺が炎症を起こしている状態を肺炎といいます。ただ一言に肺炎といっても原因は様々で、細菌性肺炎、ウイルス性肺炎、誤嚥（ごえん）性肺炎などがあり、発熱、咳、膿の様な痰がでる、などが典型的な症状になります。厚生労働省の調査によると、肺炎は日本の死因第5位であり全体の約7%を占め、和歌山県だけの死因でみると全国より少し高く、第4位になります。

【誤嚥性肺炎】様々な原因によって引き起こされる肺炎の中でも特に多いのが、誤嚥性肺炎です。誤嚥性肺炎とは、脳血管障害や認知症、加齢などにより食べ物や飲み物を飲み込む力「嚥下機能」の低下によって、本来食道にいくものが誤って気道に入る「誤嚥」によって引き起こされます。ここまで聞くと、食べ物を誤って飲み込んでしまうことが原因と思いがちですが、実際はそうではなく、ほとんどの場合は、知らないうちに「唾液」を誤嚥することによって肺炎は引き起こされます。誤嚥性肺炎は全国、和歌山県共に死因第7位であり、多くの方が患っていることがよくわかります。

【肺炎の検査】臨床検査技師が行う主な検査は、血液検査と喀痰検査になります。血液検査では、体内で炎症が起こっているかの指標であるC反応性蛋白(CRP)や白血球数の値が上昇してきます。喀痰検査では、まず喀痰を観察用のガラスに塗り、グラム染色と呼ばれる染色法で色をつけ、それを顕微鏡で観察し、細菌がいるか、どんな種類の細菌か、その細菌を排除するために白血球が出現しているかなどを観ていきます。ここまでご紹介した検査であればその日のうちに（通常なら1時間程度で）検査結果を報告することができますので、体調に異変を感じた場合は一度受診されてみてはいかがでしょうか。その後、時間はかかりますが、細菌を培養するための種々の培地に喀痰を塗り、細菌を培養することによって、より正確な菌の種類やその菌にどんな薬剤が有効的に作用するかを検査します。その検査結果を参考に、医師により適切な薬剤処方がされます。

【誤嚥の原因を減らす方法】食事の工夫や嚥下リハビリ訓練などで、ある程度は誤嚥を予防することができ、チーム医療として管理栄養士やリハビリの先生方と協力して取り組んでいます。まずは、かかりつけの医師にお気軽にご相談ください。